



やかただより

広川町
全戸配布

第96号
平成30年10月

いよいよ「高校生サミット」

『「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山』がいよいよ今月末へ迫ってきました。

2015年12月の第70回国連総会で、日本政府が提案をした「世界津波の日」が全会一致で採択されました。これは、既に皆様にもご理解をいただいていると思いますが、津波の脅威と対策に理解と関心を深めることを目的に制定されたものです。その「世界津波の日」が制定されて、若い人たちの力や感覚で津波防災を推進していただこうと「高校生サミット」を開催していると思います。1回目は高知県、2回目の昨年は沖縄県、そして今年は和歌山県と続いています。本会議は10月31日(水)、11月1日(木)、和歌山市のビッグホエールです。

今年のテーマは、『災害から命を守る ～「稲むらの火」発祥の地、和歌山で濱口梧陵の精神を共に学ぶ～』ということで、「世界津波の日」制定の基が「稲むらの火・濱口梧陵の防災精神」にあると言っていると思います。



海外からの高校生は48カ国から250人と引率50人が10月28日(日)の「第16回稲むらの火祭り」の松明行列へ参加されます。29、30日には2班に分かれて、「稲むらの火の館」や「広村堤防」の見学に来られます。案内は、耐久高校の生徒が英語でされます。9月12日には、その生徒が事前学習に来館されました。海外からの仲間を迎えて、津波防災を共に学ぼうと真剣に取り組んでいました。

町民みんなで、歓迎したいと思います。

「世界津波の日」も近づきました

11月5日の「世界津波の日」も近づいてきました。また、前項で書きました「稲むらの火祭り」は今年は「高校生サミット」の海外高校生が参加するために、例年の10月第3土曜日から1週間ほど遅れた日曜日ですが10月28日に開催されます。“火祭り”は、今年300



人の海外高校生等の参加で例年の倍以上の行列になると思われます。この松明行列を見るだけでも値打ちがある

と思います。「稲むらの火の館」でもかがり火を焚いて一行をお迎えしますので、見学スポットにも良い場所だと思います。

11月5日の「津浪祭」は今年116回目です。近年、この催しも専門家の間から、改めて評価され直されています。それは、「災害を伝承する催しが100年以上続くのもすごい事です。ところが、広川町では安政津波50回忌の明治36年に始まっている。少々の大災害でも、50年も経てば忘れてしまうのに、広川町ではその50年目に始まっている。」ということです。

本町の防災遺産「百世の安堵」が今年日本遺産に認定されたのも、こうした先人の災害をうまく伝承して、次の時には犠牲者を減らそう「犠牲者ゼロを目指そう」ということが認められたのだと思います。

NHKは、今年も11月5日に「防災特別番組」を「稲むらの火の館」特設スタジオから全国へ放送することが決まりました。JRも、電車を停車させての避難訓練も予定されています。

多くの皆様、いろいろの機関の協力も得て、津波防災を推進しようと努められています。その中心に、「広川町」「稲むらの火の館」が存在していることを誇りしたいと思います。

濱口大明神縁起を読み

濱口 擔 (かわせみより)

濱田康三郎君

去る九月発行の『かわせみ』誌上に貴兄の書かれた『濱口大明神縁起』を拝見しました。去る年ロンドン日本協会に於いて私が『日本歴史上の顕著なる婦人』と言う題で講演をした時の事に筆を起されているので、ひとしお興味を以て読み始めると当夜の光景がまざまざと脳裏に浮んで来て、『これは正しくあの席に居た何人かが書いたものであろう……それ共実見者の話を聞いて書いたものかしら』と言う事が第一に頭に感じたのであった。なる程記述に多少の前後した処や幾分の潤色した処もあるにはあるが、実際見たり聞いたりした事が寸分違わずに伝えられる事が絶対にあるものでないのが我々日常の経験によって教えられている事であるから、その頭でだんだん読み進んで行くと、それからそれへと当時の記憶が喚び起されて胸は轟き気は昂り恍惚として夢心地とでも云うのであろうか、何時しか身は二十年前の倫敦ハノーバー・スクウェアの日本協会々館の灯火そう然たる花やかなる一室に在るの感がしたのである。処が末段に私が起ってハーン氏の海嘯に関する記事の誤りを正し事実はなしを詳細に演述したと言う様に書かれてあるのを読むに至って、忽然として夢から覚めた様な感じがした。そして此の稿が『小説』と銘打たれてある事に気がついたと同時に、あの晩の出来事を生むに至った事実はなしの誤り伝えられた経路やら事件の真相やらをひとまとめにして結末をつけるために、『小説』とした筆者用意の点をうなづかれたのである。前にも云った通り、あれを読んで現在の私が、これは目撃者の筆になったものであるまいかと思うた位大体の記述が正確であり行届いてあるから、多少の前後があつたり多少の潤色はあるにしても、末の一段を除いた全部は間違いないものと認めて差支えないと思う。併し私があの場合直ちに起ってあれだけの事を喋ったと言う事は、想像としては言い得るか知れないが、実際の私としてはとてもとてもそうする事が思いもかけぬ事であったのである。余り

に意外なる事の突発したる驚きやら、亡父の人格が世界的に認められたる嬉しさと、之に対する敬慕の念やら、其の余光に浴する不肖児の面目の余りに大いに過ぎる事やら、何共形容の出来ない一種の感情に制せられ、興奮巔倒(こうふんてんとう)、或は夫れ以上の混乱の心の状態にあつて、到底一語をだも発する事が出来なかつたのである。(つづく)

＜南米エクアドル技術協力プロジェクト＞

独立行政法人 国際協力機構(JICA)の、2018年度(国別研修)エクアドル「防災アジェンダ(2018年度)」の研修として南米エクアドルから15名の研修員の方々が広川町に来られました。エクアドル危機管理庁、都市住宅省の実務者。ポルトビエホ市、サリーナス市、アタカメス市の実務者が来られましたが、サリーナス市からは市長さんも来られていました。一行は、午前中「稲むらの火の館」で3D映画



の鑑賞、館長のガイダンス、館内見学を、午後は役場3階で広川町の防災対策の講話

を聞きました。災害時の要援護者対策等の質問が出ていました。その後は、「稲むらの火広場」や「広村堤防」の見学をされました。

~~~~~  
11月5日は月曜日ですが「世界津波の日」のため開館し、翌6日を休館日といたします。

＜稲むらの火の館の紹介＞

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です